放射状壁面噴流を用いた準置換換気方式空調に関する研究 (その8)ブロックモデルによる室内鉛直温度分布の予測及び乱流熱拡散係数の同定 A Study on Semi-Displacement Ventilation using Radial Wall Jet (Part 8) Prediction of Vertical Temperature Profile by Block Model and Determination of Turbulent Thermal Diffusivity

学生会員〇杉田 雄希(大阪市立大学) 正会員小林 知広(大阪市立大学) 正会員 梅宮 典子(大阪市立大学) Kazuki SUGITA^{*1} Tomohiro KOBAYASHI^{*1} Noriko UMEMIYA^{*1}

* 1 Osaka City University

The Impinging Jet Ventilation (IJV) system is an air-conditioning method to form thermal stratification. This system mixes air more moderately within the occupied zone than the Displacement Ventilation. The final objective of this work is to establish a simplified prediction method of vertical temperature distribution based on the Block Model. As a numerical experiment, a parametric study on supply air momentum is first conducted by CFD in this paper. Based on those results, appropriate turbulent thermal diffusivity in the Block Model corresponding to the supply air condition is determined, because it is of great importance on vertical temperature distribution.

1. はじめに

本研究では置換換気方式に比べて室下部の居住域 空気が適度に混合する方式で、床面付近から鉛直下 向きに給気する Impinging Jet Ventilation 方式^{1,2)}(以降 IJV 方式)を対象とし、鉛直温度分布の性状解明とそ の簡易予測を目的とする。既往の研究 3-60 では実験室 実験による基礎的性状の把握、ならびに放射の影響 を考慮した非等温 CFD 解析の精度検証を行った。上 下に温度成層が形成される大空間の予測モデルとし て戸河里ら⁷⁾のブロックモデルがあり、置換換気室 を対象として熱プルームの影響を組み込んだブロッ クモデルに関する研究^{8,9)}も見られる。しかし、これ らの予測モデルで温度成層の形成に大きな影響を及 ぼす重要なパラメータである上下ブロック間の乱流 熱拡散係数について検討した研究は少ない。

そこで本報では、吹出口数と給気風量を変更した CFD 解析による数値実験を実施した上でその結果を 真値と仮定し、ブロックモデルを用いて適切な室内 鉛直温度分布を再現し得る乱流熱拡散係数の同定を 行った結果を報告するとともに、無次元数を用いた 関数式を提案する。

2.CFD 解析を用いた数値実験

本章では吹出口数の異なる4条件(1,2,4,6個)を 設定し、一定の投入熱量条件下で給気運動量の変化 が温度成層に及ぼす影響を把握するために、CFD 解 析を用いて吹出口数と給気風量を変更した数値実 験を行う。解析対象は既報⁵の実験室を模した寸法 9.0×5.0×2.7mの室で、IJV 吹出面が床上 600mm にな るように設置され、夏期冷房時を想定した熱負荷と



して室中央に発熱体(2.0kW)を有する(図1)。4条 件の平面図を図2に示す。既報^{5,6}と同様に乱流モデ ルにはSST k-ωモデルを使用し、透過や空間内の吸収・ 散乱の無い表面メッシュ間のみの放射解析 (Surfaceto-surface モデル)とし、メッシュ間の形態係数はレ イトレーシング法により算出した。解析条件を表1 に示すとともに、給気条件を表2に示す。給気温度 は20℃とし、給気風量は600,900,1,200m³/hの3段 階とした。水平面平均温度の鉛直分布を図3に示す。 給気風量が等しい場合、居住域下部では給気風速の 低下とともに温度が低下し、居住域の上下温度差が 増加する傾向が示された。また、給気風量が大きく なるにつれて空気の混合が促進されるため、温度成 層が不明瞭になると言える。次章ではこの結果を真 値と仮定してブロックモデルによる鉛直温度分布の 簡易予測を行う。

3. ブロックモデルによる室内鉛直温度分布の予測 3.1. モデル概要

本研究では室内空間を鉛直方向に10分割し、室・ 壁面近傍・熱プルームの3領域間あるいは隣接する 上下ブロック間の移流・拡散ならびに床面及び天井 面での対流熱伝達による熱移動を評価し、鉛直温度 分布の簡易予測を行う(図4)。前章と同様の室を想 定し、強い熱プルームを生じる発熱体を想定して発 熱量を2.0kWとした。室上部から順にブロック番号*I* を1~10とし、IJV 方式における給気は最下部の Block 10 から行い、排気は Block 1 から行う。

図5に計算過程を示す。本モデルは給排気風量等の初期条件ならびに室ブロックに仮定した初期温度を与え、戸河里らの手法⁷により各壁面ブロック(K)で生じる下降流(または上昇流)の風量を算出する。次にプルーム流量の予測式¹⁰⁾を用いて発熱体(L)から生じるプルーム流量を算出し、流入風量をもとに熱量収支を計算する。その後、壁面流ならびにプルームへの誘引風量をもとに室ブロックの風量収支及び熱量収支を計算する。熱量収支においては上下ブロック間の乱流熱拡散を考慮するため、熱拡散係数 a_t [m²/s]を用いて熱移動係数 C_b [W/(m²·K)]を算出して計算を行う^{注1,2}。なお、対流伝達率はユルゲスの式を用いて算出した^{注3}。

最後に収束条件を確認して条件を満たしていれば 計算を終了する。風量収支及び熱量収支の概要図を 図6に示し、計算方法詳細を表3に示す。



3.2. 乱流熱拡散係数の同定

 $Ar_{s_{A}} = \frac{g \times \beta \times \sqrt{A_{in}} \times (T_{10} - T_{SA})}{g \times \beta \times \sqrt{A_{in}} \times (T_{10} - T_{SA})}$

 V_{md} : Vertical flow rate of mixed flow [m³/s]

 T_{m} : Temperature of wall down flow [°C]

本節では、前章の CFD 解析結果を真値と仮定して ブロックモデルによる予測結果を比較し、上下ブロッ ク間の乱流熱拡散係数 a, を最小二乗法により有効数 字2桁で同定する。本研究では*a*,を室の上部と下部 で $a_{t upper}$ と $a_{t lower}$ の2つに分け、それぞれ 10^{-5} ~ 10^{-1} の 範囲で同定する。これは吹出気流の影響を受ける領 域を室上部と区別することを意図した。表2に示す 条件において同定された両領域の乱流熱拡散係数を 表4に示すとともに、室内鉛直温度分布を図7に示す。 全条件においてブロックモデルと CFD 解析の結果が 良く一致したと言え、乱流熱拡散係数を2種に分け る手法の妥当性が示された。温度予測モデルの確立 には2種のa,を設計条件等から予測可能とする必要 があり、*a*_{t lower} は給気と室下部の温度差、*a*_{t upper} は室 の上下温度差が支配的と仮定して以下の2種のAr数 を定義し、それぞれその関数として整備する。

ここで、 $g: 重力加速度 [m/s²], \beta: 体積膨張率 [1/K], v_{SA}: 給気風速 [m/s], <math>T_{SA}$: 給気温度 [\mathbb{C}], A_{in} : 吹出 面積 [m²], T_{I0} : 最下部ブロック温度 [\mathbb{C}], H_r : 天井 高 [m], T_{EA} : 排気温度 [\mathbb{C}] である。図8に Ar 数と a_t の関係を示すとともに、それぞれの近似式の一例を 図中に示す。室上部においては低風速で Ar_{room} が大き くなるとともに a_{t_upper} が低下する傾向が示された。吹 出後の衝突噴流の影響を受ける室下部でもその傾向 は見られるものの、衝突噴流により空気の混合が促 進されるため、室上部と比較すると a_{t_lower} の値は大き くなる結果となった。

4. まとめ

本研究では、CFD 解析による数値実験の結果を真 値として、ブロックモデルによる室内鉛直温度分布 の簡易予測に必要な乱流熱拡散係数を2領域に分け て同定するとともに、その妥当性を示した。今後は 設計条件等を変更した数値実験の結果を蓄積し、乱 流熱拡散係数の適切な関数化を図る。



表 3	ブロック	モデルにお	ける計算方法
-----	------	-------	--------

Air flow rate of plume	Air flow rate and heat balance of room block
$V_{p} = 0.005 \times W^{\frac{1}{3}} \times (h - h_{0})^{\frac{5}{3}}$	$\sum_{K=1}^{m} \{ V_{in}(I,K) - V_{out}(I,K) \} + V_{sa}(I) - V_{ca}(I) - \sum_{L=1}^{n} V_{pin}(I,L) + V_{c}(I+1) - V_{c}(I) = 0$
Air flow rate balance of wall down flow $V_{out}(I,K) - V_{in}(I,K) + V_{md}(I-1,K) - V_{md}(I,K) = 0$	$\begin{bmatrix} \text{Top block} \end{bmatrix} \\ \sum_{n=1}^{m} C_{p} \rho V_{m}(I, K) [T_{m}(I, K) - T(I)] + \sum_{l=1}^{n} C_{p} \rho V_{pm}(I, L) [T_{p}(I, L) - T(I)] + C_{p} \rho V_{c}(I+1) [T(I+1) - T(I)] \end{bmatrix}$
Air flow rate and heat balance of plume block $V_{p}(I+1,L)-V_{p}(I,L)+V_{pm}(I,L)=0$ [Top block] $\sum_{L=1}^{n} C_{p}\rho V_{p}(I+1,L)[T_{p}(I+1,L)-T_{p}(I,L)]+\sum_{L=1}^{n} C_{bp}H_{b}B_{p}(I,L)[T(I)-T_{p}(I,L)]=$ [Medium block] $\sum_{L=1}^{n} C_{p}\rho V_{p}(I+1,L)[T_{p}(I+1,L)-T_{p}(I,L)]+\sum_{L=1}^{n} C_{p}\rho V_{pm}(I,L)[T(I)-T_{p}(I,L)]+$ $+\sum_{L=1}^{n} C_{bp}H_{b}B_{p}(I,L)[T(I)-T_{p}(I,L)]=0$ [Bottom block]	$= 0 \qquad $
$\sum_{L=1}^{n} C_{p} \rho V_{pin}(I,L) [T(I) - T_{p}(I,L)] + W + \sum_{L=1}^{n} C_{bp} H_{b} B_{p}(I,L) [T(I) - T_{p}(I,L)] = 0$	% The term with underbar is 0 if V_c indicates the outflow from the block.
Nomenclature	
V_p : Air flow rate of plume [m ³ /s] V_{sa} : Supply air flow rate [m ³ /s]	T_{sa} : Supply air temperature [°C] A_b : Area of boundary surface of block [m ²]
V_{pin} : Entrainment air flow from block [m ³ /s] V_{ea} : Exhaust air flow rate [m ³ /s]	W : Heat generation rate of heating element [W] H_b : Height of one block [m]
$V_{\rm in}~$: Inlet air flow from wall down flow [m³/s] $~~V_c~$: Vertical flow rate between room block $~~$	cks [m ³ /s] h : Height above the floor [m] B_p : Circumferential length of plume [m]
V_{out} : Outlet air flow to wall down flow [m ³ /s] T : Room block temperature [°C]	h_0 : Distance to virtual point heat source from floor [m] C_b : Heat transfer coefficient between blocks [W/(m ² ·K)]
V_m : Mixed wall down flow [m ³ /s] T_p : Plume temperature [°C]	B : Circumferential length of heating element [m] C_{bp} : Heat transfer coefficient around plume [W/(m ² ·K)]

 $C_n \rho$: Volumetric specific heat of air [J/(m³·K)]

- [注]·
- 注1) 熱移動係数は乱流拡散によるブロック間熱移動の影響を考慮
- する係数であり、 $C_b = a_t \times C_p \rho / H_b$ で与える。 注 2) 室ブロックとプルームブロックの境界における乱流熱拡散を 考慮し、熱移動係数を $C_{bp}=1$ [W/(m²·K)] として、プルーム周 長にブロック高さを乗じた境界面積を適用した。なお、プルー ムが鉛直方向から軸対称に 12.5 度の拡がり角度を有する¹⁰⁾ と仮定してプルーム周長を計算した。
- 注3) 対流熱伝達率は以下のユルゲスの式から算出した。vには給 気風量を床面積で除した風速を適用した。

$\alpha_c = 5.6 + 3.9v$	$(v \le 4.9 m/s)$
$\alpha_c = 7.2 v^{0.78}$	(v > 4.9 m/s)

表4 最小二乗法により同定した乱流熱拡散係数

	$a_{t_upper} [m^2/s]$	$a_{t_lower} [m^2/s]$		$a_{t_upper} [m^2/s]$	$a_{t_lower} [m^2/s]$
Case 1-1	0.011	0.019	Case 3-1	0.0010	0.0059
Case 1-2	0.11	0.15	Case 3-2	0.0025	0.011
Case 1-3	0.23	0.096	Case 3-3	0.0075	0.036
Case 2-1	0.0018	0.0094	Case 4-1	0.00052	0.0079
Case 2-2	0.0067	0.022	Case 4-2	0.0010	0.017
Case 2-3	0.019	0.069	Case 4-3	0.0030	0.025



図8 乱流熱拡散係数とアルキメデス数の関係

- 「参考文献]-
- T.Karimipanah, H.B.Awbi : Theoretical and experimental investigation of impinging jet ventilation and comparison with wall displacement ven-tilation, Building and Environment, Vol.37, pp.1329-1342, 2002
- H.Chen, B.Moshfegh : Investigation on the flow and thermal behavier of impinging jet ventilation systems in an office with different heat loads, Building and Environment, Vol.59, pp.127-144, 2013
- 3)小林知広,近本智行:放射状壁面噴流を用いた準置換換気方式 空調に関する研究(その2),空気調和衛生工学会大会学術講演 論文集,第3巻,pp.437-440,2013.9
- 4)小林知広,梅宮典子,岸本孝志:放射状壁面噴流を用いた準置 換換気方式空調に関する研究(その4),空気調和衛生工学会大 会学術講演論文集,第3巻,pp.205-208,2014.9
- 5) 杉田雄希,小林知広,梅宮典子,岸本孝志,Mats Sandberg:放 射状壁面噴流を用いた準置換換気方式空調に関する研究(その 6),空気調和衛生工学会大会学術講演論文集,第6巻,pp.177-180,2015.9
- 6)杉田雄希,小林知広,梅宮典子:放射状壁面噴流を用いた準置 換換気方式空調に関する研究(その7),空気調和衛生工学会近 畿支部学術研究発表会論文集,pp.-,2016.3
- 7) 戸河里敏,荒井良延,三浦克弘:大空間における上下温度分布 の予測モデル大空間の空調・熱環境計画手法の研究(その1), 日本建築学会計画系論文報告集,第427号, pp.9-19, 1991.9
- 8) 東本丈明,山中俊夫,甲谷寿史,花野弘行:冷却面を有する置 換換気室内の温度・汚染物濃度分布-熱プルームを組み込んだ ブロックモデルの適用-,日本建築学会環境系論文集,第571号, pp.47-53,2003.9
- 9) 石黒亮,近本智行,小林知広:緩衝ブロックを用いた置換空調 の室内上下温度分布予測モデルに関する研究,空気調和衛生工 学会近畿支部学術研究発表会論文集,pp.151-154,2012.3

10) H.Skistad : DISPLACEMENT VENTILATION, Research Studies

